





国 語 問 題

はしめ、これを読むこと。

- 1 この問題用紙は十三ページある。
- 2 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合し、確認すること。
- 3 解答用紙の所定の欄に氏名を記入すること。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定の欄にマークするか、または所定の欄に記述すること。
- 5 解答は、必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
- 6 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
- 7 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。また所定の欄以外のところには、絶対に記入しないこと。
- 8 問題に指定された数より多くマークしないこと。
- 9 解答用紙は、持ち帰らないこと。
- 10 この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
- 11 試験時間は、六十分である。
- 12 解答をマークする場合は、下の記入例を参照して、正しくマークすること。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	  

Faint, illegible text covering the majority of the page, likely bleed-through from the reverse side.

一 次の文章を読んで、後の問に答えよ。(本文の表記を一部改めた箇所がある)

暴力とは何であろうか。マックス・ウェーバーは、カリスマや慣習によって成りたっている社会と、依法的支配によって成りたつ近代の社会とを対比している(『支配の社会学』第九章第二節)。すなわち、近代においては、国家がルールを定め、それに従わないひとに処罰を与えようとするとき、犯罪、すなわちルールに反するものとしての暴力が、国家において定義される。

それにしても、ルールは暴力を誘発し、誘惑する。たとえば立入り禁止の場所に入ろうとしたら、それをソシ^アする警備員と小競りあいが起こるだろう。だれにも迷惑をかけていなくても、一旦停止しなかったドライバーは、隠れていた交通警官と小競りあいをするだろう。ルールで禁止されることによって争いが生じるようになるのだし、ルールに反すること、そのこと自体が暴力であると知覚されるようになるのである。

あるいは、ルールがないこと、曖昧であることによつても、従来にはなかつたような行動をとるひとが出てきて、それで迷惑するひととのあいだに争いが起こるようになるだろう。それまでは自然にすぎなかつたものが、I、つまり暴力として見出だされ、それに対処すべきひとが罰せられるようになるのである。

そのとき、国家が権力として姿を現し、そうしたもろもろの暴力を抑止するものとして認知される。つまり、権力とは、暴力の記号なのである。ルールの定められたところでは、権力は最初から暴力の行使をちらつかせる。それに反するひとを、排除したり殺したりするとオド^イかすのである。処罰は自然の暴威ではなく、また古代の法のような復讐(リベンジ)ではなく、「見せしめ^A」である。見せしめをすることができるのは、権力か、あるいは犯罪者だけである。

とはいえ、犯罪者による見せしめは、ルールに依拠するものではない。もしひとが犯罪者に従うとしたら、それは、その犯罪者による暴力を避けているだけである。犯罪者が見せしめのルールを唱えたとしても、その「ルール」は恣意的に改変されるであろうから、「この場合には必ずしも」といった意味でのルールではあり得ない。

暴力で強制するものを「ルール」と呼ぼうと、それは、国家によって制定されるようなものでもなければ、国家を成立させるようなものでもない。カリクレスのようにして、「法は力による」というようなことがいわれるとしても（プラトン『ゴルギアス』）、それは、ルールという形式をもった命令のことにすぎないのである。

^B 暴力は、本来、ルールを必要とはしないのである——「ルール」という語を使って、その陰に隠れようとはするかもしれないが。約束であれ、習慣であれ、ジンクスであれ、みずから従われようとするものがルールである。ルール自体は暴力ではない。

暴力とルールの曖昧な関係を理解しなければならぬ。国家を形成するのは、暴力でもなければ、ルールでもない。では、一体どのようにして、国家の設立とルールの制定、および暴力の記号である権力の発生という事態が出来するのであるのか。

しばしば、暴力の嵐のあとに新たな国家が形成されてきた。王が戴冠し、支配階層が画定され、身分が形成されて、その後何十年かの平和が訪れる。暴力は支配階層に独占され、それ以外の暴力が軍隊と警察によって封じられる時代が到来する。

暴力は、あとから見れば新たな支配階層と身分制度の確立を目的として生じたかのようなものである。しかし、ベンヤミンが分析したように、それは、みずからが暴力であったことを隠すことによる（『暴力批判論』）。すなわち、みずからが法を作ったにおいて、自身が合法的であることを被支配階層の民衆に押しつける——権力の II を説明する歴史物語が書かれ、暴力は敗者の方に割り当てられるのである。

つまり、群れにおいては、ルールのもとで争われるのではなく、ルールを巡って争われるのである。最も強いのは勝者ではなく、ルールを制定し、勝者がだれかを決定する側である。そして、ルールを無視する人間の行為が、——^C ロックがそのようなひととはオオカミとおなじにみなしてよいと述べているが——、あとになって暴力と呼ばれることになる。ルールを無視するのは、ルールを定めるのと似たような行為であるにもかかわらずである。

したがって、暴力の二重の意味を混同しないようにしましょう。第一の暴力は、ルールを定める暴力である。第二の暴力は、ルールによって定義され、あるいは惹き起こされる暴力である。国家が存在するということは、第一の暴力については忘却する

ことを強制され、第二の暴力ばかりが意識されるようになるということである。

ひとが手足を振りまわしたり、武器を使ったりしたら、それがみな暴力だというわけではない。自然現象であれ、結果として怪我人や死人が出たら、それがみな暴力だというわけではない。「暴力」という概念を理解するのは難しい。というのも、それが単なる現象ではなく、暴力によって確立されるものによって暴力が定義され、似たような行動や結果にもかかわらず、それ自身が暴力ではないとされるのだからである。

近代国家においては、法の支配が目指されて、憲法など、——憲法にはほかの役割もあるが——、ルールを決めるためのルールが定められるようになった。議会制民主主義の体制においては、選挙をし、多数決でルールの変更を決めるが、ベンヤミンが問題にするのは、ルールを決めるためのルールを変えようとするときである。

というのも、ルールを決めるルールを変えるときのルールなど、どこにも存在しないからである。憲法の改定は、しばしばクーデター(国家の一撃)の一種なのであり、新たな支配階層による国家の**篡奪**なのである。それが、ベンヤミンによると、犯罪という見せかけの暴力の陰に隠されている第一の真の暴力、「**神的暴力**」である——国家が設立されたいきさつを正統化する物語のなかでの「**神話的暴力**」からは区別される。

何かをきっかけに、やがて社会の内から外から突然暴力が噴出する。「民衆の不満のマグマ」というような表現があるが、それは**天変地異のヒユ**である。だが、それを、溜まっていくようなものとして、エネルギー概念で理解すべきではない。それは、状況に応じて突然起こる。こういってよければ、いつも暴力が噴出する準備はある。人間が群れになって動くところに暴力、「荒ぶるもの」があり、動乱と殺人が起こる。無政府主義の開幕、アルトーの言う「**アナキストの戴冠**」がある(『ヘリオガバルス』)。

マルクスのいう共産主義革命もそのひとつであったはずだが、マルクスはそれを、ホップズと同様に、理性による目的合理的判断であるとみなしたようである。かれもまた、秩序が理性によって生まれてくると信じていた。

しかし、歴史が教えたように、革命の理想は小市民たち(ブチブル)の理性のまえには力はなく、やがて共産主義は威光を失

った。ひとびとは、手段としての暴力の正当化をマキアヴェリズム(目的のためには手段を選ばないという考え方)とみなし、どんなによい目的であつても暴力は許されないと考えたからである。

(船木亨『現代思想講義——人間の終焉と近未来社会のゆくえ』より)

注 マックス・ウェーバー——一八六四—一九二〇。ドイツの社会学者、思想家。

カリクレス——プラトンの対話編『ゴルギアス』に登場する、紀元前五世紀、アテナイの政治家。

ベンヤミン——ヴァルター・ベンヤミン。一八九二—一九四〇。ドイツの文芸批評家、思想家。

ロック——ジョン・ロック。一六三二—一七〇四。イギリスの哲学者、政治思想家。

アルトール——アントナン・アルトール。一八九六—一九四八。フランスの詩人、演出家。

マルクス——カール・マルクス。一八一八—一八八三。ドイツの社会主義思想家、運動家。

ホッブズ——トマス・ホッブズ。一五八八—一六七九。イギリスの政治思想家。

問一 傍線ア「ソシ」、傍線イ「オド(かす)」、傍線ウ「ヒユ」をそれぞれ漢字に改めて記せ。

問二 傍線a「恣意的」、傍線b「篡奪」の漢字の読みをそれぞれひらがなで記せ。

問三 空欄 I にあてはまるものとして最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 想定外の破壊的現象
- ② 予定外の示威的行動
- ③ 時間外の否定的侵入
- ④ 問題外の威嚇的抵抗

問四 傍線 A「犯罪者による見せしめは、ルールに依拠するものではない」とあるが、「犯罪者による見せしめ」が依拠するものは何か。それを表したものととして最も適切な箇所を本文中から十四字で抜き出し、その最初と最後の三字を記せ。

問五 傍線 B「暴力は、本来、ルールを必要とはしないのである」とあるが、暴力とルールの関係を説明したものととして最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 当初の暴力は、カリスマや慣習によって無自覚的に行使されるものが、ルールの代りとなった。
- ② 本来の暴力は、古いルールを守らせることに専念し、わざわざ新たなルールを作ろうとしない。
- ③ 第一の暴力は、新たなルールを定めはするが、既存のルールによって定められるものではない。
- ④ 初期の暴力は、その行使をちらつかせて強制するという意味でのルールがすでに存在している。

問六 空欄 II にあてはまるものとして最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 信憑性
- ② 妥当性
- ③ 正統性
- ④ 親和性

問七 傍線C「ルールを無視するのは、ルールを定めるのと似たような行為である」を説明したものとして最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① ルールを無視するという行為は、ルールに従って決定した勝者を敗者の側に回すことと等しいものであるから、新たなルールで勝負をやり直すことと似ている。
- ② ルールを無視するという行為は、獣の行動とも対比されるほどの激しい衝動を伴わなければならないという点で、ルールを作るときにも似た情熱が必要である。
- ③ ルールを無視するという行為は、被支配階層に押しつけておいたルールをそのままにして、別のルールをさらに押しつけることにも似た身勝手さが感じられる。
- ④ ルールを無視するという行為は、目の前にあるルールが存在しないかのようにふるまうという点で、ルールが存在しない段階からルールを作る行為と似ている。

問八 傍線D「ルールを決めるためのルールを変えようとする」ことが必要になったときに現れるものは何か。次の中から最も適切なものを一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 無政府主義
- ② 神的暴力
- ③ 議会制民主主義
- ④ 神話的暴力

問九 傍線E「社会の内から外から突然暴力が噴出する」とあるが、それを拒否する方向に働くものは何か。次の中から最も適切なものを一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 法の支配
- ② 小市民たちの理性
- ③ ルールの変更
- ④ 無政府主義の開幕

二

次の文章は、元永元年（一一一八）十月二日に行われた「内大臣忠通家歌合」十番目の歌競べとその判定文である。これを読んで、後の問に答えよ。（一部本文を改めた箇所がある）

題 時雨しぐれ

左後持

忠房朝臣

波寄する海士あまの苦屋くるまの隙ひびをあらみ漏るにてぞ知る夜半よはの時雨は

右基勝

兼昌朝臣

夕月夜いるさの山の高根よりはるかにめぐる初時雨かな

俊云、前の歌は、時雨すげなき様に聞こゆ。時雨は起きゐて、聞き明かすべき事ならねど、これは漏るに、初めて知るといへば、I、漏りて衣の濡れければ、起き騒ぐと見ゆ。もし漏らざらIIば、又の日、人づてにこそ聞

かましと、おぼつかなくぞ聞こゆる。後の歌は、山の高根をめぐるといへる事、おぼつかなし。「もろともに山めぐりする」といへる歌は、この山にふると言へる事なり。これは同じ高根をめぐると言へれば、行道しけると聞こゆるなり。さもあ
なむにや。ひとへに難じ申すにはあらず。おぼつかなきなり。聞きあきらめんほどは、持とや申すべき。

基云、2おしなべて所も分かず降らむ時雨に、海士の苦屋までは思ひ寄らでもはべりぬべかりける事かな。又、檣の板屋などには、たたかるにても、時雨の音を知りはべりなんかし。春雨の糸を乱り音もせずして漏らんにや、驚かれはべらむ。右の歌、目を喜ばしむるまで、もてあそびとはすべくもあらねども、「はるかにめぐる初時雨」、いま少し心ありてやはべらん。

注 海士の苦屋 —— 茅などを編んだもので屋根をふいたり周囲をかこつたりした粗末な漁夫の家。

いるさの山 —— 入佐山。兵庫県北部の豊岡市にある。歌枕。

俊云 —— 平安後期の歌人・源俊頼(歌の判者の一人)の言うことには。

「もろともに山めぐりする」といへる歌 —— 「もろともに山めぐりする時雨かなふるにかひなき身とは知らずや」

(『玄々集』『金葉集』『詞花集』等に藤原道雅の歌として記載)。「詞花集」に

は「東山に百寺拝み侍りけるに、時雨のしければよめる」の詞書がある。

行道しける —— 読経をしながらめぐり歩いてた。

持 —— 引き分け。

基云 —— 平安後期の歌人・藤原基俊(歌の判者の一人)の言うことには。

問一 傍線1・2を口語訳せよ。

1 隙をあらみ

2 おしなべて

問二 「時雨」と同じ時期の景物として最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

① ほととぎす

② 紅葉

③ 藤

④ うぐひす

問三 空欄 I に入る言葉の意味として最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 寝入っていたところ
- ② 波の音を聞いていたところ
- ③ 時雨の音を聞いていたところ
- ④ 目を覚ましかけていたところ

問四 空欄 II に入る助動詞を適切な活用形にして三文字で記せ。

問五 傍線 A 後の歌は、山の高根をめぐるといへる事、おぼつかなし」とあるが、俊頼の見解について説明したものとして最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

① 「もろともに山めぐりする」という歌は、自分に寄り添って降る時雨に止んでほしいと詠んでいるが、兼昌の歌は、光榮にも時雨と一緒に行道したと詠んでいるように聞こえる。

② 「もろともに山めぐりする」という歌は、この山で自分も時雨とともに時間を過ごしていると詠んでいるが、兼昌の歌は、時雨とは違うところで行道したと詠んでいるように聞こえる。

③ 「もろともに山めぐりする」という歌は、時雨が自分のいる山に降っていることを詠んでいるが、兼昌の歌は、時雨とともに行道したと詠んでいるように聞こえる。

④ 「もろともに山めぐりする」という歌は、自分と一緒に山めぐりする時雨のことを詠んでいるが、兼昌の歌は、時雨が遠ざかり一人で行道したと詠んでいるように聞こえる。

問六 基俊の判定の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 忠房の歌は、時雨が海士の苦屋に降るところが優れている。
- ② 忠房の歌では、楨でできた板屋などであれば人が戸を叩く音で時雨に気づくだろう。
- ③ 兼昌の歌は、単なる手なくさみの歌とはいえないほどの素晴らしさを持っている。
- ④ 兼昌の歌では、「はるかにめぐる初時雨」の部分に少し風情があるだろう。

問七 本文で述べている内容に合致しないものとして最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 俊頼は、時雨について、一晚中起き明かしてその音を聞くものではないと述べている。
- ② 俊頼は、兼昌の歌で、「夕月夜」が「山の高根をめぐるとある点が不審だと述べている。
- ③ 基俊は、忠房の歌が、音のない春雨であれば、漏れて気づくこともあるだろうと述べている。
- ④ 基俊は、忠房と兼昌の歌について、圧倒的な差はないように述べている。

問八 判者・源俊頼を作者とする『俊頼髓脳』という作品があるが、これと同じジャンルに入るものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 古事談
- ② 枕草子
- ③ 袋草紙
- ④ 唐物語

三

次の文章を読んで、後の間に答えよ。(返り点・送り仮名を省いた箇所がある)

唐棲姚氏又有二婦、體質荏弱、目中能見二鬼物。其母家有二

一婦病、姚氏婦往省之。見病者床前立一黑人、面目不甚可

弁。又有二人、面色与常人無異、对黑人而揖。每見皆然、甚

怪之。此婦之病旋愈。意者此黑人為三索命之凶魂、对黑人而

揖者、則報恩之善鬼矣。

注 唐棲 —— 現浙江省杭州市の北、徳清県に属する地名。

荏弱 —— よわよわしい。

揖 —— 両手を胸の前で合わせた礼。

(『右台仙館筆記』より)

問一 傍線 a「与」・b「毎」の読みとして、それぞれ適切なものを、次の中から一つずつ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① と
- ② より
- ③ たびに
- ④ に
- ⑤ ために
- ⑥ ともに
- ⑦ ごとに

問二 傍線 A を書き下し文にすると、「病める者の床前に一黒人立つを見る」となる。これをふまえて、「見」と「立」の部分に返り点を付けよ。(送り仮名は不要である)

問三 傍線 B「面目不甚可弁」を、口語訳せよ。

問四 傍線 C「報恩」の「報」と異なる意味の「報」を含む熟語はどれか。次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 報 奨
- ② 報 告
- ③ 報 国
- ④ 報 酬

問五 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次の中から一つ選び出して、その番号をマークせよ。

- ① 善い亡霊が命を持ってきたため、婦人は病から回復した。
- ② 姚氏の婦が見た黒人は、人を死に至らしめる亡霊であった。
- ③ 姚氏の婦が虚弱体質だったのは、黒い亡霊のためであった。
- ④ 姚氏の母が亡霊の力を抑えたことで、病は回復に向かった。

